

平成31年度 学校自己評価計画書

石川県立鶴来高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実施状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1 生徒指導の方針・基準に一貫性を持ち、毅然とした指導で、基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚を図る。	① 挨拶を含めた所作の指導を、学校生活の中で行う。	生徒指導課 各学年	挨拶ができると自覚している生徒の割合は82.2%となっており、昨年同時期と同じ状況である。 今年度は、特活課と連携して積極的に挨拶運動を行い、来校者・教職員、地域の方、友人間でも明るく元気な声で挨拶ができるようにしていく必要がある。	【努力指標】 来校者・教職員、地域の方、友人・クラスメートに明るく元気な声で挨拶・お辞儀等ができる。	学校に関係する方々にはもちろん、生徒間の挨拶も積極的にできる生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (生徒アンケート)
	② 望ましい服装容儀や規範意識の向上に対して全教職員が積極的に指導にあたる。	生徒指導課 全教職員	規範意識に若干欠けたり、服装の乱れがある生徒が少数存在する。それに対して約90%の教職員は積極的に指導を行っている。	【努力指標】 積極的に生徒への声かけを教員が協力して行っている。	服装容儀等について積極的に声かけをしている教職員が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (教職員アンケート)
	③ 規則正しい生活習慣と機敏な行動を確立するよう指導することで、遅刻の減少に努める。特に朝の始業5分前に着席するよう強く指導する。	生徒指導課 教務課 各学年	昨年度は、学校・授業間遅刻ともに大幅に減少した。(学校：H29：971→H30：653、授業間：H29：464→H30：253) 今年度は、「遅刻ゼロ運動」を継続するとともに、生徒とのきめ細かい面談、保護者との密接な連携により積極的に指導し、さらに遅刻数を減少させることに注力する。	【成果指標】 規則正しい生活習慣が身につくことで、1年あたりの遅刻人数が20%以上減少している。	1年あたりの遅刻人数が、 A 20%以上減少した。 B 15%以上減少した。 C 15%未満の減少であった。 D 減少しなかった。	Dの場合、指導の方法を再検討する。	月ごとの集計記録を整理して、前年度の年間総合計に基づいて評価する。
	④ 全職員が連携して「いじめ」が根絶されるよう努力する。	生徒指導課 全教職員	いじめ問題対策委員会を毎週開催し、生徒の情報を共有する。いじめの兆候がある場合には、速やかに対処している。	【満足度指標】 「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が高い。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	Dの場合、指導の方法を再検討する。	年間8回調査する。 (生徒アンケート)
	⑤ ゴミの分別を通して、環境美化の意識が向上するよう指導する。	保健厚生課 全教職員	生徒自身ではゴミの分別ができているという認識をもっているが、現実には十分に分別されていない状況もあり、アンケートの採り方を工夫する等の方策により、その乖離を解消するための意識改革と継続的な指導が必要である。	【満足度指標】 環境美化に努め、ゴミを正しく分別できる。	ゴミを正しく分別できていると考えている生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満  ゴミを正しく分別できていると考えている教職員の割合が A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (生徒アンケート)

2	授業のユニバーサルデザイン化を推進するとともに、家庭学習時間や読書量の増加を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	① 様々な背景や問題を抱えた生徒を理解するために教員が連携できる体制を整え、学校外からも助言を得ながら適切に支援できる能力の向上を目指す。	教務課 各教科 教育相談課	教員は、個人面談等を通して生徒理解に努めている。教科指導委員会や教育相談委員会で扱われた様々な生徒の情報を共有しつつ、一層の生徒理解と適切な学習指導の在り方を追求し、質的向上を目指す必要がある。	【努力指標】 教職員は個々の生徒理解に努めた上で、学習指導を行う。	個々に応じた指導内容や生徒主体の学習活動を取り入れている教職員の割合が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (教職員アンケート)
	② 教科でテーマを決め、また、互いに授業を参観することにより授業力の向上を図る。少人数であることを活かした効果的な授業を行う。	教務課 各教科	少人数に応じた習熟度別授業や選択授業を実施している。教員間での授業力にばらつきがある。授業の中で生徒が知的刺激を受け、自己肯定感を高めることができるように、ICTやグループワークを今まで以上に活用する等の授業の工夫を重ねる必要がある。	【満足度指標】 習熟度別や選択授業が、生徒の学習活動に対して効果的に実施されている。	授業で充実した学習活動の時間を持つことができる生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (生徒アンケート)	
	③ 個に応じた進学指導、就職指導を充実させることにより、自分に自信を持たせ、希望する進路を実現するよう努力させる。	進路指導課 3年学年会 各教科	30年度の国公立大学合格者数は2名であった。進路指導課と学年・教科が進路指導について密接に連携することにより、一人ひとりの生徒の希望を実現させ満足度を一層高める必要がある。	【成果指標】 国公立大学に現役で3名以上合格している。	年度末の進学状況において、国公立大学合格者が、 A 5名以上 B 3～4名 C 2名 D 1名以下	Dの場合、目標設定の検討、指導方法等を検討する。	最終進学状況の調査で評価する。	
				【成果指標】 就職希望者が11月末までに100%内定している。	11月末の就職状況において、就職希望者の内定率が、 A 100% B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満	Dの場合、目標設定の検討、指導方法等を検討する。	11月就職状況の調査で評価する。	
	④ 家庭学習調査を行い、その状況を分析し、課題の出し方を適切に工夫したり、担任が面談したりすることで家庭学習の習慣を身につけさせることにつなげる。	進路指導課 教務課 各学年	家庭学習の必要性を自覚し、取り組むことができる生徒は半数以下であり、未だ定着しているとは言えない。一人ひとりの特性に応じた課題等を与え、生徒が学ぶ喜びを感じつつ取り組む姿勢を身に付けさせなければならない。週間課題などを与え学習習慣の確立を目指す。	【満足度指標】 担任・教科担当・部顧問と連携し、文武両道を実践させる。	家庭学習の時間を確保している生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上60%未満 C 40%以上50%未満 D 40%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (生徒アンケート)	
⑤ 学校図書室の取り組みを活性化し、積極的に読書に取り組ませる。	教務課(図書担当)	昨年度の図書室利用者数は延べ5,996名で、貸出数については1,727冊と約2倍の増加となった。図書委員会の取り組みの活性化に加え、国語科との連携により読書指導の充実を図り、豊かな言語文化に触れさせるとともに、読書の楽しさを知り、読書量の増加を図る。	【成果指標】 教科のみならず、朝読書や委員会活動等を通して、読書量の増加を促していく。	図書室での年間貸出冊数が、 A 2,000冊以上 B 1,800冊以上2,000冊未満 C 1,600冊以上1,800冊未満 D 1,600冊未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	年度末に集計する。		

3	教育活動の速やかな情報発信と地域社会と連携したボランティア活動の推進で、地域や保護者から信頼される開かれた学校づくりに努める。	①	PTA関係行事の情報提供や、メール配信による連絡を確実にすることにより、学校が開かれていると感じる保護者の割合を高める。	総務課	学校やPTAの情報が的確に伝わっていると感じている保護者は94.4%、メール配信サービス登録者の割合は94.3%となった。最新の学校の様子やPTA活動の様子を発信・提供することにより、学校の教育活動への理解を深めていく必要がある。	【満足度指標】 本校における教育活動への取り組みが、ホームページやメール配信、プリント物等により、保護者によく理解されている。	学校は、開かれた学校づくりに取り組んでいると感じている保護者が、 A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (保護者アンケート)
		②	中学生やその保護者に本校の教育活動をより理解してもらえよう、ホームページの内容を充実させる。	総務課	昨年度の年間更新回数は455回で1.5倍の増加、アクセス数では約87,000件で1.2倍の増加となり、堅調な数値となった。タイムリーな更新の必要性は言うまでもなく、1回の訪問ではなく再訪問者を増やすために、内容を掘り下げていくとともに、さらなる本校の魅力と特色を伝えていく工夫と改善を図っていく必要がある。	【成果指標】 部活動や委員会等でもページを頻繁に更新し、生徒の学校生活の様子やタイムリーな情報、他校にはない本校の魅力と特色を掘り下げ、伝えていくことに努めていく。	ホームページのアクセス数が A 9万件以上 B 8万件以上9万件未満 C 7万件以上8万件未満 D 7万件未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	毎月のホームページのアクセス数を把握するとともに、7月、12月に集計する。
		③	生徒・教職員・保護者が一体となり、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組み、地域とのつながりを深めていく。	特活課 総務課	昨年度、中学校・地域とのつながりを強める活動ができたと感じた教職員は60.0%であった。本校の様々な活動を広く深く理解してもらったためにも、全教職員が取り組んでいく必要がある。	【努力指標】 教職員が積極的に小中学校や地域と連携する活動に参加している。	地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組むことができたと思う教職員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	年度末に調査する（教職員アンケート）
4	教職員自ら、これまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。	①	各教職員が自らの勤務時間や業務内容を的確に把握し、超過勤務時間の縮減に努める。	教頭 全教職員	昨年度、超過勤務の縮減に取り組んだと思う職員の割合は93.6%、80時間以上超過の教職員は18%であった。教職員に超過縮減の意識はあるが、更に縮減していく必要がある。	【努力指標】 教職員一人ひとりが自らの勤務時間を把握し、業務内容を精査して超過勤務時間の縮減に取り組んでいる。	超過勤務時間を昨年度より減少させることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア) + (イ)の割合が、 A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (教職員アンケート)
		②	部活動において、顧問と生徒が共通の目標を持ち、効率的・効果的な活動に取り組む。	教頭 全教職員	部活動指導が超過勤務の58%を占めている。教職員・生徒ともにベストな状態で向き合うために、効率的・効果的に取り組んでいかなければならない	【努力指標】 部活動において、教職員・生徒がともに活動時間・内容を意識して取り組んでいる。	限られた時間の中で、効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (教職員及び生徒アンケート)